

稲毛海浜公園自然観察会

浜辺の生き物を観察しよう！

南 俊哉(千葉市)

日 時：2024年6月8日(土)10:00~12:00 干潮 11:58 (潮高 0cm)

場 所：稲毛海浜公園 (千葉市)

参加者：20名(大人10名、子ども10名)

指導員：田島・中田・本多・南・伊藤(事務局)

梅雨入り間近の時期でしたが、晴天に恵まれました。指導員の田島さんより、スケジュール、および危険生物の注意事項の確認がありました。開始時刻で13人でしたが、結果20人でしたので、計画通り3班に分かれて活動しました。浜辺までの間、シオカラトンボなどの虫や、カワウが羽根を乾かしている様子も見ることができました。

突堤付近で、生き物の採集をスタート。子どもたちは、夢中になって生き物を探し回っていました。大きなヤドカリ・カニ・エビを見て触って大興奮。身を持って体験している様子でした。採ったヤドカリで「ヤドカリ競争」をしました。予選の後、決勝を行い優勝した子どもはガッツポーズ。その後、採取した生き物たちを分類し、甲殻類や貝の仲間が多いようでした。

田島さんから参加者に、生き物について色々な説明がありました。二枚貝の砂潜りの仕方、ホンビノスガイはアメリカ出身、カニのオス・メスの見分け方、テッポウエビがハサミでパチンとすること、海の生き物の食物連鎖の話、貝やゴカイなど、海をきれいにする生き物がいることを伝えて頂きました。

その後、生き物たちは元の場所に返し、参加者の皆さまには周囲のゴミ拾いを手伝っていただき、スッキリして観察会終了となりました。子どもたちからは、「大きなエビをもっと採りたかった」とか、大人からは、「大きなヤドカリを見つけられてよかった。」「子どもの頃より魚が戻ってきていると感じた」と、ご感想を頂きました。また、「こういった自然に触れ、ゆったりとした時間を持つことが大事」と話される保護者の方もいらっしゃいました。嬉しい限りです。子ども達には遊びを与えなくても、自分で遊んで、無我夢中になれる力があることを改めて感じました。観察会が終わった後も、一部の子供もたちは、続けて、生き物と触れ合っていました。やはり、生き物には魅力がありますね。



ヤドカリ競争しています



指導員の話聞いています

<観察した浜辺の生き物(五十音順)>

アナゴ、アラムシロガイ、イカ卵のう、イッカククモガニ、ウロコムシの一種、エビジャコの一、イソガニ、イボニシ、イワフジツボ、クラゲの一種、ゴカイの一種、コブヨコバサミ、シオフキ、タカノケフサイソガニ、タテジマイソギンチャク、タマシキゴカイの糞、ツメタガイ卵塊、テッポウエビ、バカガイ、ハゼの一種、フグの一種、フナムシ、ユビナガスジエビ、ユビナガホンヤドカリ、など